

生活

098(865)5158 seikatu@ryukyushimpo.co.jp

高齢化で子のケア重く

年若い親が障害のある子どもを介護し続ける老障介護が深刻化する中、広島県呉市のフリーライター・児玉真美さん(63)が高齢化する母親らの聞き取りを重ね、新著「私たちはふつうに老いることができるのか」(大月書店)をまとめた。老いる自分と向き合い、つ子の介護を担う親たちは今、何を思うのか。自身も重い障害のある娘がいる児玉さんに聞いた。

老障介護 苦悩聞き取り

「若い頃は問題なかった介護が今は重労働。腰にサポーターを巻いて何とか踏ん張ってます」。児玉さんが苦笑する。重症心身障害があり、6歳から施設で暮らす長女海さん(32)は月2、3回の頻度で一時帰宅。体重約30kgの娘を夫婦で抱きかかえ、車いすに移したり、おむつ交換をしたり。その度還暦を越える体はきしむ。親子3人で一緒に入る「お風呂の時間」も諦めざるを得なくなった。

フリーライター・児玉さん新著

も子のショートステイ先を探さねばならず「悲しみを感じている余裕もなかった」と話す人…。過酷な現実には多様な複雑だ。特に深刻だったのは、自分がケアを担えなくなった後の子の生活について、多くの親が「考えられない」と答えたことだ。「地域の施設や介護事業所などの受け皿も人手も不足し、家族支援が圧倒的に足りないことを痛感しているからこそ、先を見通せないんです」

近年は「親亡き後」がよく議論されるが、その前に「私たちはそれまでの長い時間を老い、病み、衰えながら生きていかなければならない」と児玉さん。だが、母親らの老いへの戸惑いや苦悩はこれまであまり言語化されてこなかった。背景には「母親が『苦しい』『助けて』と口

※私たちがはじめて老いることができない「から抜かれた」重く障害のある子をもつ高齢期の親たちの語り
体力の限界と衰えを自覚しつつある。夫婦のどちらか1人になったらお手上げ(長年の介護で)手の指が変形し、常に痛みがあるが在宅介護は今まで通り。時々この生活がいつまで続くのかと考える
夫がいよいよ(亡くなる)という時、2人の子のショートステイ先を急いで探さなければならず、悲しむ余裕もなかった
子の将来や行き場が決まらないと、私自身のことどころじゃない
親亡き後なんて、一体どうなるんだろう。想像もつかない



児玉真美さん(左)と海さん。お出かけ先のフードコートで、海さんが大好きなオムライスを前に(児玉さん提供)

児玉真美さんの著書「私たちはふつうに老いることができるのか」 私たちはふつうに老いることができるのか

老いることができる できない

「スベリヒユ」は沖縄本島の首里、大宜味村饒波では方言名で「ニンブトゥカー」「ニンブトゥキ」と呼ばれている、スベリヒユ科の植物です。畑や道端、空き地など、日当たりの良い場所に生えています。直径5〜6cm程度の非常に小さな黄色い花が咲き、全体的に多肉質で無毛、茎は赤紫色を帯びています。熱帯から温帯にかけて世界中に広く分布しています。



沖繩の植物漫歩

100cmの視界から

あまはいくまはい

沖縄の新型コロナウイルスに関するニュースを見ながら、不安になる毎日。米軍人・軍属・家族には国内法が適用されないなど日米地位協定があるために沖縄の人が犠牲になることが次々と起こり、怒りと悲しみが込み上げてきます。

=77=

伊是名夏子 いぜな・なつこ 1982年那覇市生まれ。コラムニスト。骨形成不全症のため車いすで生活しながら2人の子育てに奮闘中。現在は神奈川県在住。

熱が38・5度まで上がり、私も不安になってきました。わが家には1日10時間、総勢10人のヘルパーさんが入れ替わり入っているのですが、もし誰かがコロナに感染したら、クラスター(集団感染)になることだってあります。ヘルパーさんに状況と

感染予防について連絡します。息子が使ったトイレは毎回アルコール除菌、でも洗面台やお風呂までは手が回りません。私も息子と距離を保ちたいのですが、甘えてくるので、そうもいきません。幸いなことに、1日で熱は下がりましたが、最低でもあと2日は隔離です。息子も元気になってきて、娘と遊びたがるし娘もちょっかいを出しに行きます。鼻水やせきをしながら、駄々をこねて暴たり、ふざけるので「もしウイルスがママにうつったらどうす

るの?」と、脅しのような言葉をかけてしまったことに反省。コロナに感染した時のために、隔離方法や除菌方法をあらかじめ考え、子どもと話してはいましたが、実際に感染を疑う状況になってみると全然うまくいきません。家庭内感染を防ぐのが難しい。

これからも体調不良の度にコロナを疑い、不安になるのかと思うと気が重いです。また感染したら、周りから「電車でせき込んでいたよ、外出するなんてね」「カラオケボックスの前で見掛けたよ、感染への意識がないよね」などといういろいろな言われ方ではないかと思うと、怖くもありません。「今日は体調が悪いなあ」とつぶやくことさえはばかれます。失うものがあるからこそ、得るものがあると思いたいです。不安でいっぱいですが、自分を大切にしたい。手洗いを小まめにし、密を避けてソーシャルディスタンスを保ち、おいしいものを食べて、たくさん寝て、笑って、免疫力を高めましょう。

家族の発熱、どうする?



朝の準備でお互い協力し合う兄妹。小さい私は届きません(笑)

「今回は8月4日」